

## ブラジル:Petrobras は 2025 年までの資本支出、石油・ガス生産見通しを引き下げ Open Acreage 方式の鉱区入札、沖合鉱区への関心は低い

(出所:Petrobras website、ANP website、Platts Oilgram News、BNamericas 他)

- Petrobras は 2021 年から 2025 年の戦略計画、Strategic Plan 2021-2025 (SP 2021-2025) で、資本支出を 552 億ドル(前計画、SP 2020-2024 比 27%減)、うち探鉱・生産部門への投資額を 446 億ドル(同 27.5%減)とした。プレソルトに重点を置き探鉱・開発を進めるとの方針はより強まり、探鉱・生産部門の投資額の 70%をプレソルトの探鉱・開発に充てるとしている。
- 新規生産設備 13 基の生産開始が予定されていることから、Petrobras の石油・天然ガス生産量は 2021 年の石油換算で日量 275 万バレルから 2024 年には 330 万バレルに増加、2025 年はその水準を維持する見通しだ。SP 2020-2024 に比べ、生産の伸びがほぼ 1 年ずつ先送りされており、さらに、資産売却が進めば 2025 年には生産量が石油換算で日量 60 万バレル減少する可能性があるとしている。
- Petrobras は SP 2020-2024 では 200 億~300 億ドルの資産売却を計画していたが、SP 2021-2025 では資産売却額を 250 億~350 億ドルに引き上げた。Marlim 油田、Albacora 油田など深海油田も資産売却の対象となったことが、この要因である。
- Petrobras は、ブラジル国内の石油販売量が減少するとの見通しから、中国やインド向けに石油輸出量を増やしていく計画だ。
- Petrobras は、天然ガスのフレアの削減、二酸化炭素の再圧入、製油所の省エネやエネルギー効率向上などにより、2030 年までに二酸化炭素排出量を 25%削減するとしている。一方で、専門知識が乏しく、投資対効果が期待できない再生可能エネルギー事業には手をつけない方針。
- ブラジル国家石油庁(ANP)が 12 月 4 日に実施した Open Acreage 方式の鉱区入札には、7 社が札を入れ、17 鉱区と成熟油田 1 油田を落札した。サインボーナスは合計で 5,700 万リアル(1,100 万ドル)、最低投資義務額は 1 億 6,000 万リアルとなった。陸上鉱区に関しては、Petrobras の天然ガス市場独占が終わることを受け、ブラジル企業が 16 鉱区、1 油田を落札したが、沖合鉱区は Shell が Campos 盆地の 1 鉱区を落札したのみという結果に終わった。この結果を受け、ブラジル政府が契約条件などを石油会社が参入しやすいように見直すのではないかとの見方がなされている。

### 1.Petrobras の戦略計画

Petrobras 取締役会は 2020 年 11 月 25 日、2021 年から 2025 年の 5 年間の戦略計画「Strategic Plan 2021-2025 (SP 2021-2025)」を承認した。Petrobras は 11 月 30 日と 12 月 1 日に開催した Petrobras Day でその戦略計画の詳細を発表した。

#### Global Disclaimer(免責事項)

本資料は石油天然ガス・金属鉱物資源機構(以下「機構」)調査部が信頼できると判断した各種資料に基づいて作成されていますが、機構は本資料に含まれるデータおよび情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、本資料は読者への一般的な情報提供を目的としたものであり、何らかの投資等に関する特定のアドバイスの提供を目的としたものではありません。したがって、機構は本資料に依拠して行われた投資等の結果については一切責任を負いません。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、機構資料からの引用である旨を明示していただきますようお願い申し上げます。

## (1) 資本支出

Petrobras は 2021 年から 2025 年の 5 年間の資本支出を 552 億ドルとし、そのうち 84%にあたる 465 億ドルを石油・ガスの探鉱・生産部門に割り当てるとしている(図 1)。



図 1. Petrobras の 2021～2025 年の資本支出の分野別、年別の内訳

出所:Petrobras website

Petrobras は、毎年、5 年間の投資、生産などの計画を更新している。原油価格下落や同社をめぐる汚職問題の影響を受け、Petrobras は、2014 年から 2018 年の 5 年計画「Business and Management Plan (BMP) 2014-2018」以降は資本支出を、また、BMP 2015-2019 以降は探鉱・生産部門への投資額を削減していた。しかし、BMP 2018-2022 以降、資本支出や探鉱・生産部門への投資額には大きな変更が行われなかったり、増額されたりするようになり、同社は回復に向かっていると見られていた。しかし、2019 年に発表された SP 2020-2024 で Petrobras は、ハイリターンが期待できるプロジェクトに投資を集中するとし、資本支出を 10%、探鉱・生産部門への投資額を 6.5%、それぞれ前 5 か年計画より削減した。そして、今回発表された SP 2021-25 では、COVID-19 の感染拡大とそれに伴う石油需要の減退、原油価格の下落を受けて、資本支出を 27%、探鉱・生産部門への投資額を 27.5%と、SP 2020-2024 よりさらに大きく削減した(図 2)<sup>1</sup>。

<sup>1</sup> Petrobras は、毎年更新する 5 年間の投資計画の名称を 2018 年発表のものまでは「Business and Management Plan」としていたが、2019 年以降「Strategic Plan」と変更した。

### Global Disclaimer(免責事項)

本資料は石油天然ガス・金属鉱物資源機構（以下「機構」）調査部が信頼できると判断した各種資料に基づいて作成されていますが、機構は本資料に含まれるデータおよび情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、本資料は読者への一般的な情報提供を目的としたものであり、何らかの投資等に関する特定のアドバイスの提供を目的としたものではありません。したがって、機構は本資料に依拠して行われた投資等の結果については一切責任を負いません。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、機構資料からの引用である旨を明示していただきますようお願い申し上げます。

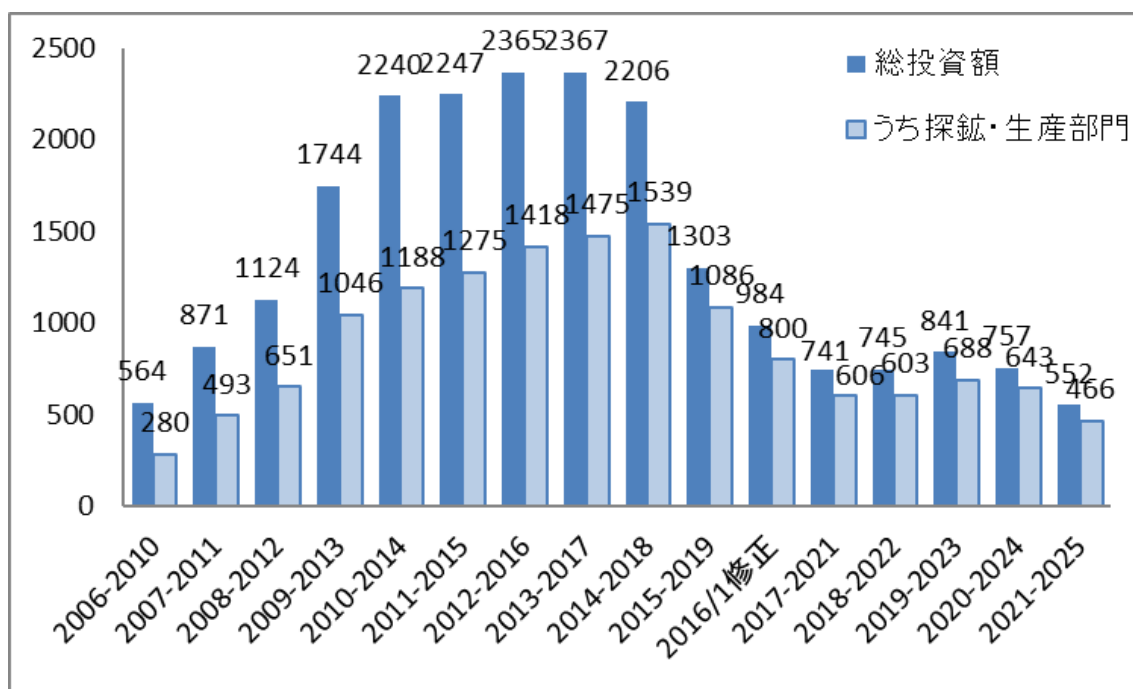


図2. Petrobras の資本支出予定額の推移(単位:億ドル)

Petrobras website を基に作成

ただし、資本支出に占める探鉱・生産部門への投資額の割合は SP 2020-2024 の 64%から 84%に、探鉱・生産部門への投資額に占めるプレソルトへの投資額の割合は 59%から 70%に引き上げられており、これまで以上にプレソルトに重点を置き探鉱・開発を進める方針を強めていくことがうかがわれる。中でも、Buzios 油田の開発には探鉱・生産部門の投資額の 36% (167 億ドル)を充てるとしている。SP 2020-2024 では、Petrobras は、Buzios 油田の開発には探鉱・生産部門の投資額の 28% (179 億ドル)を充てるとしていた。また、プレソルトの Tupi 油田、Jubarte 油田、Sépia 油田、Atapu 油田、Mero 油田、Sapinhoá 油田、Itapu 油田、Berbigão/Sururu 油田の開発にも探鉱・生産部門の投資額の 25%が充てられる。一方で、ポストソルトに関しては、Marlim、Roncador、Barracuda/Caratinga 油田などの開発を進めるとしているが、Marlim や Albacora 等の油田の権益売却を計画していることに伴い、これらポストソルトのプロジェクトへの投資額の探鉱・生産部門への投資額に占める割合は、SP 2020-2024 の 29%から 22%に引き下げられている(図3)。

Petrobras は、Campos 盆地にはプレソルトとポストソルトを合わせて SP 2020-2024 比約 30%減の 130 億ドルの投資を計画している。このうち約 10%は 2017 年から 2019 年に取得した 14 鉱区の探鉱に充てられるという。そして、2021 年にはプレソルトの坑井 4 坑を掘削する予定だという。

**Global Disclaimer(免責事項)**

本資料は石油天然ガス・金属鉱物資源機構(以下「機構」)調査部が信頼できると判断した各種資料に基づいて作成されていますが、機構は本資料に含まれるデータおよび情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、本資料は読者への一般的な情報提供を目的としたものであり、何らかの投資等に関する特定のアドバイスの提供を目的としたものではありません。したがって、機構は本資料に依拠して行われた投資等の結果については一切責任を負いません。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、機構資料からの引用である旨を明示していただきますようお願い申し上げます。

また、Petrobras は赤道周辺部の探鉱に 10 億ドル、Sergipe 深海の開発に 20 億ドルの投資を計画している。



図 3. Petrobras の探鉱生産部門の資本支出の内訳

出所:Petrobras website

Petrobras は 2021 年から 2025 年までに精製部門に 37 億ドルを投じる計画だ。Petrobras は、現在所有している 13 の製油所を 2025 年には 5 製油所まで減らし、精製能力も日量 220 万バレルから 115 万バレルまで減らす計画だ。そして、国際海事機関(International Maritime Organization:IMO)の 2020 規制を満たす低硫黄の石油製品の精製・処理量を増やすことに重点を置いていくとしている。

ガス及びエネルギー(電力)部門には 11 億ドルの投資が計画されており、プレソルトで生産される随伴ガスを輸送するルート 3 パイプラインでガスの供給を受ける予定の UTG Itaboraí 天然ガス処理施設の建設などが行われる。Petrobras によると、ルート 3 パイプラインと同ガス処理施設は 2021 年第 4 四半期または 2022 年第 1 四半期までに稼働する予定である。

Petrobras の SP 2021-2025 は、SP 2020-2024 と比較して資本支出を 27%削減することとしたが、これは 2020 年に他の石油会社が発表した資本支出削減率 20~30%とほぼ一致している。Total は 3 月に、2020 年の設備投資を 17%削減して 150 億ドルにすると発表、さらに 5 月には設備投資額を 140 億ドルまで削減すると発表した。BP は 4 月に、2020 年の設備投資を 2019 年第 4 四半期に発表した 150 億~170 億ドルから 120 億ドルに 25%削減するとした。Shell は 3 月に、2020 年の設備投資を当初計画の 250

**Global Disclaimer(免責事項)**

本資料は石油天然ガス・金属鉱物資源機構(以下「機構」)調査部が信頼できると判断した各種資料に基づいて作成されていますが、機構は本資料に含まれるデータおよび情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、本資料は読者への一般的な情報提供を目的としたものであり、何らかの投資等に関する特定のアドバイスの提供を目的としたものではありません。したがって、機構は本資料に依拠して行われた投資等の結果については一切責任を負いません。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、機構資料からの引用であることを明示していただきますようお願い申し上げます。

億ドルから 200 億ドルに削減するとした。ExxonMobil は 4 月に、2020 年の設備投資額を 30%削減して 230 億ドルとするとした。Eni は、3 月に 2020 年の設備投資を当初計画の 89.6 億ドルから 67.2 億ドルに、さらに 4 月に 61.6 億ドルに削減するとした。Equinor は 3 月に、設備投資を 100 億～110 億ドルから 85 億ドルに約 20%削減すると発表した。Pemex は 2020 年の設備投資を当初 167 億ドルと計画していたが、144 億ドル程度になる見込みである。

## (2) 探鉱・開発・生産

Petrobras は、2021 年の同社の石油・天然ガス生産量は、COVID-19 の感染拡大や 2020 年に生じた原油価格下落などの影響を反映し、石油換算で日量 275 万バレルになるとしている。その後は、2021 年から 2025 年の 5 年間に深海、大水深で新たに 13 基の生産設備の生産を開始する予定であることから、生産量は着実に増加し、2024 年には石油換算で日量 330 万バレルとなり、2025 年はその水準を維持するとしている(図 4)。

ただし、Campos 盆地の Albacora 油田や Marlim 油田の権益を含む上流資産の売却が進めば、2025 年には生産量が石油換算で日量 60 万バレル減少する可能性があるとしている。減少分の内訳は、陸上、浅海での生産が石油換算で日量 30 万バレル、Marlim 油田群が 20 万バレル、Albacora 油田と Albacora Leste 油田が 10 万バレルとなっている。

また、資産売却に加え、ポストソルトの成熟油田の生産減退やプレソルトでの新規生産開始により、プレソルトからの生産量が総生産量に占める割合は 2021 年の 67%から 2025 年には 80%に高まる見通しである。

### **Global Disclaimer(免責事項)**

本資料は石油天然ガス・金属鉱物資源機構（以下「機構」）調査部が信頼できると判断した各種資料に基づいて作成されていますが、機構は本資料に含まれるデータおよび情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、本資料は読者への一般的な情報提供を目的としたものであり、何らかの投資等に関する特定のアドバイスの提供を目的としたものではありません。したがって、機構は本資料に依拠して行われた投資等の結果については一切責任を負いません。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、機構資料からの引用である旨を明示してくださいようお願い申し上げます。



図 4. Petrobras の 2021～2025 年の生産見通し

出所:Petrobras website

Petrobras は SP 2020-2024 で、新規の浮体式生産貯蔵積出設備 (floating production, storage and offloading:FPSO) 13 基の生産開始や Campos 盆地の生産安定により、2021 年に石油換算で日量 290 万バレル、2022 年に 310 万バレル、2023 年に 330 万バレル、2024 年に 350 万バレルと生産量は着実に増加するとしていた。SP 2021-2025 では、SP 2020-2024 に比べ、生産の伸びがほぼ 1 年ずつ先送りされており、さらに、資産売却の影響も加味されている (図 5)。COVID-19 の感染拡大や原油価格下落などが影響を及ぼしたこと、また、上流資産売却の対象が浅海や陸上から、深海の Albacora 油田や Marlim 油田にまで拡大されたことが原因と考えられる。

**Global Disclaimer (免責事項)**

本資料は石油天然ガス・金属鉱物資源機構（以下「機構」）調査部が信頼できると判断した各種資料に基づいて作成されていますが、機構は本資料に含まれるデータおよび情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、本資料は読者への一般的な情報提供を目的としたものであり、何らかの投資等に関する特定のアドバイスの提供を目的としたものではありません。したがって、機構は本資料に依拠して行われた投資等の結果については一切責任を負いません。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、機構資料からの引用である旨を明示していただきますようお願い申し上げます。

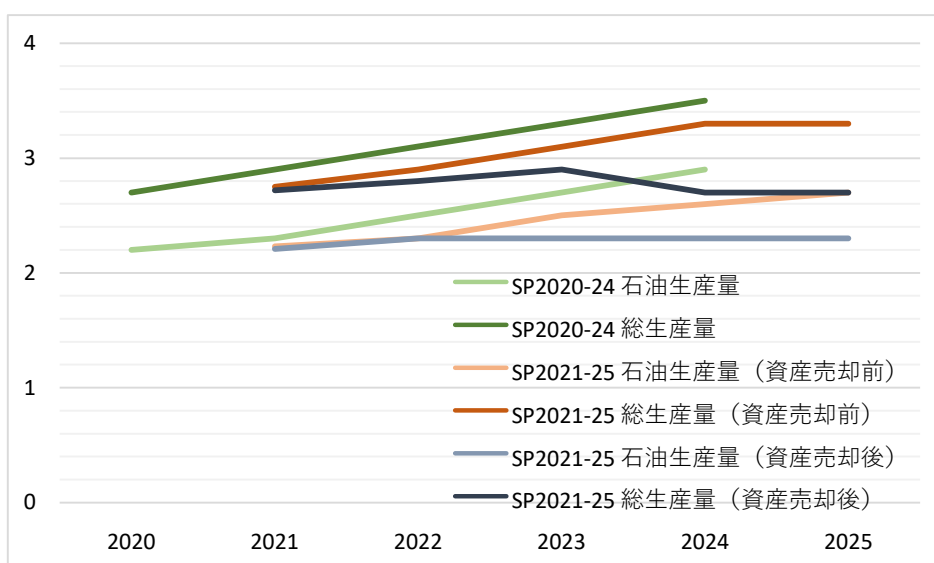


図 5. Petrobras の生産見通し比較

Petrobras website を基に作成

Petrobras は、2021 年から 2025 年に 13 基の FPSO を新たに設置するために 170 億ドルを投じる計画だ。FPSO の生産開始に関する SP 2020–2024 からの主な変更点は、Itapu 油田の生産開始を 2024 年から 2023 年に前倒したこと、Marlim 1 の生産開始を 2023 年に、Parque das Baleias (IPB) の生産開始を 2024 年に 1 年延期したこと、Lula FR プロジェクトを除外したことである。また、SP 2021–2025 には、2025 年に生産開始が予定されている Mero 4、Búzios 7 (FPSO P-78)、8 (FPSO P-79) が加えられた (図 6)。

中国の大連造船所での COVID-19 流行の影響で建造が遅れたものの、Mero 1 の FPSO Guanabara と Sépia 油田の FPSO Carioca の生産開始は 2021 年の予定を維持した。FPSO Carioca はブラジルに向かっており、2021 年 1 月の到着を予定しているが、FPSO Guanabara は 2021 年下半期の初めに到着予定となっている。

前述した通り、Petrobras は 2025 年までに 130 億ドルを Campos 盆地の探鉱・開発に投じる計画であるが、これにより Campos 盆地で 100 坑以上を掘削し、今後 5 年間で現在の生産量、日量 80 万バレルを 100 万バレルに増やすとしている。

なお、Petrobras は、Brent 原油の価格がバレル当たり 35ドルでも採算が取れるプロジェクトにのみ投資を行うとしている。

**Global Disclaimer(免責事項)**

本資料は石油天然ガス・金属鉱物資源機構（以下「機構」）調査部が信頼できると判断した各種資料に基づいて作成されていますが、機構は本資料に含まれるデータおよび情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、本資料は読者への一般的な情報提供を目的としたものであり、何らかの投資等に関する特定のアドバイスの提供を目的としたものではありません。したがって、機構は本資料に依拠して行われた投資等の結果については一切責任を負いません。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、機構資料からの引用であることを明示していただきますようお願い申し上げます。

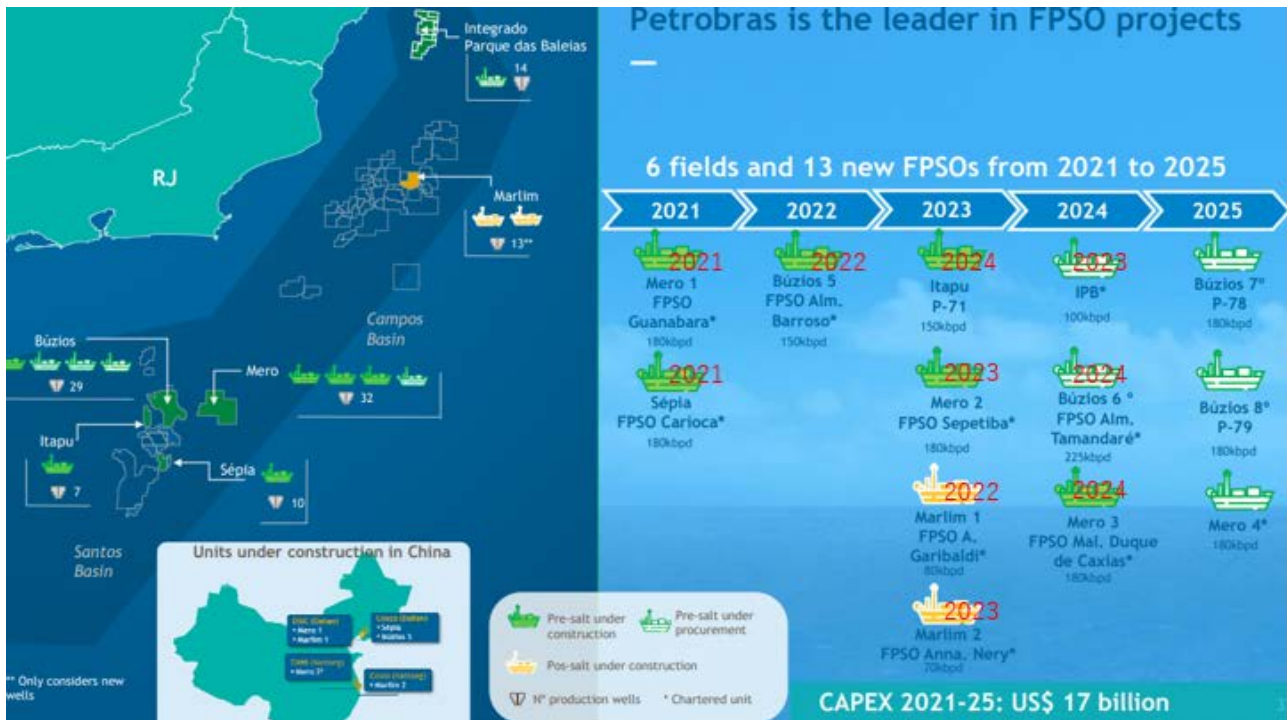


図 6. Petrobras の生産計画

出所:Petrobras website に加筆

注:赤字は SP 2020-2024 で予定されていた生産開始年

廃坑に関して Petrobras は、2025 年までに 46 億ドルを投資し、Campos 盆地や Espírito Santo 盆地を中心に、プラットフォーム 18 基と総延長 1,000km の海底ライザー及びフローラインを廃止する計画だ(図 7)。Petrobras は SP 2020-2024 では、2000 年に 5 億ドル、2021 年に 23 億ドル、2022 年に 11 億ドル、2023 年に 11 億ドル、2024 年に 10 億ドルの合計 60 億ドルをかけ、18 基のプラットフォーム、パイプライン、沖合抗井の廃坑を行う予定としていたので、廃坑費は SP 2020-2024 より 23%削減されることになる。

**Global Disclaimer(免責事項)**

本資料は石油天然ガス・金属鉱物資源機構（以下「機構」）調査部が信頼できると判断した各種資料に基づいて作成されていますが、機構は本資料に含まれるデータおよび情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、本資料は読者への一般的な情報提供を目的としたものであり、何らかの投資等に関する特定のアドバイスの提供を目的としたものではありません。したがって、機構は本資料に依拠して行われた投資等の結果については一切責任を負いません。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、機構資料からの引用である旨を明示していただきますようお願い申し上げます。



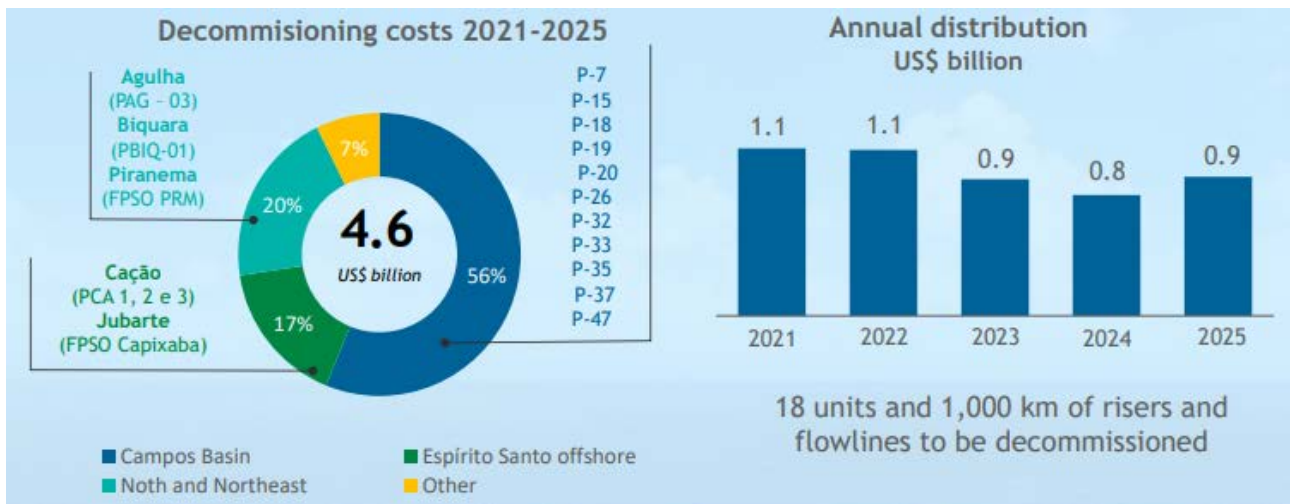


図 7. Petrobras の廃坑計画

出所:Petrobras website

### (3) 資産売却

Petrobras は SP 2020-2024 で 2020 年から 2024 年の 5 年間に 200 億～300 億ドルの資産を売却するとしていたが、SP 2021-2025 では 2021 年から 2025 年の 5 年間の資産売却額を 250 億～350 億ドルとした。

Petrobras は、当初、上流資産については陸上及び浅海の資産を売却するとしていた。しかし、2020 年 9 月 25 日に Campos 盆地の Albacora 油田(権益保有比率 Petrobras 100%)と Albacora Leste 油田(同 Petrobras 90%、Repsol 10%)を資産売却プログラムに追加することを明らかにした。その際に Petrobras は、Marlim 油田のようなより大規模な資産売却については未定としていた。しかし、11 月中旬に、Marlim 油田群(Marlim、Voador、Marlim Leste、Marlim Sul 油田)の権益 50%の入札に向けた情報開示を開始した。2020 年 8 月の生産量は、Albacora 油田が石油換算で日量 4.3 万バレル(うち石油 3.0 万バレル)、Albacora Leste 油田が 3.8 万バレル(同 3.3 万バレル)、Marlim 油田が 6.4 万バレル(同 6 万バレル)、Marlim Leste 油田が 3.6 万バレル(同 3.3 万バレル)、Marlim Sul 油田が 12.6 万バレル(同 11.2 万バレル)となっているが、プレソルトの油田が開発される以前にはいずれの油田もブラジルの主要油田であった。なお、Petrobras は、Marlim 油田群の権益 50%の売却後もこれらの油田のオペレーターを続けるとしている。Andrea Almeida 最高財務責任者(CFO)によると、Marlim 油田、Albacora 油田、Albacora Leste 油田などが資産売却対象となったことから、Petrobras は資産売却目標を SP 2020-2024 の 200 億～300 億ドルから引き上げたという。

#### Global Disclaimer(免責事項)

本資料は石油天然ガス・金属鉱物資源機構(以下「機構」)調査部が信頼できると判断した各種資料に基づいて作成されていますが、機構は本資料に含まれるデータおよび情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、本資料は読者への一般的な情報提供を目的としたものであり、何らかの投資等に関する特定のアドバイスの提供を目的としたものではありません。したがって、機構は本資料に依拠して行われた投資等の結果については一切責任を負いません。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、機構資料からの引用である旨を明示していただきますようお願い申し上げます。

Petrobras はまた、燃料販売子会社 BR Distribuidora、天然ガス販売子会社 Gaspetro、石油化学子会社 Braskem などの非中核資産の株式も売却対象としている。ただし、BR Distribuidora と Braskem の株式売却は、市況が好転するまで待たなければならない、と Almeida 氏は述べた。また、Gaspetro の株式 51% の売却は、現在の売却プロセスの下での単独入札者が独占禁止規制当局 CADE によって失格とされたため、再度実施することが必要になるという。

Petrobras は製油所 8 か所も売却する計画だが、これらの製油所の売却は、Petrobras が資産売却で調達すると見込んでいる 250 億～350 億ドルのかかなりの部分を占めると見られている。Petrobras は、Bahia 州 RLAM 製油所に関して Mubadala Investment と協議中で、数週間以内に売却契約を締結し、2021 年 1 月までには資産の移行プロセスを開始する見込みである。Petrobras の持分を、CADE との合意の下、現在の 98% から約 50% に引き下げることになる。Amazonas 州 REMAN 製油所、Ceará 州 LUBNOR 製油所、Paraná 州 SIX 製油所についても、Petrobras は拘束力のあるオファーを受けたという。Paraná 州 REPAR 製油所(入札予定企業 Raizen、Ultrapar、Sinopec)と Rio Grande do Sul 州 REFAP 製油所についても拘束力のあるオファーを間もなく受ける予定で、2021 年第 1 四半期には売却に向けた基本的な合意が得られる見通しだ。Petrobras は第 1 四半期中に、REGAP 製油所と RNEST 製油所の拘束力のあるオファーを受けられると見ている、と最高経営責任者(CEO)の Roberto Castello Branco 氏は語っている。なお、Petrobras は、製油所 5 か所を手元に残す計画だが、それらの製油所はいずれも石油の生産拠点であるプレソルトや消費地に近い南東部に存在する施設である。

#### (4) 石油輸出

Petrobras は 2021 年からの 5 年間は、資産売却とともに石油輸出に注力するとした。ブラジル国内の石油販売量は、自社製油所の売却に伴って、2015 年から 2019 年の日量 134.8 万バレルから、2021 年から 2025 年には 125.2 万バレルに減少すると予想される。一方、石油輸出は、2015 年から 2019 年の 5 年間の日量 44.5 万バレルから 2021 年から 2025 年には 89.1 万バレルに増加する見通しだ。中国は Petrobras の最も重要な輸出市場として浮上しているが、Castello Branco 氏は、同社はインドなど他の市場の開拓にも取り組んでいると述べている。

#### (5) 脱炭素化促進

Petrobras は、2030 年までに二酸化炭素排出量を 25%削減するとしている。Petrobras は、エネルギー・トランジションや再生可能エネルギープロジェクトについては言及せず、天然ガスのフレアリングの

#### Global Disclaimer(免責事項)

本資料は石油天然ガス・金属鉱物資源機構(以下「機構」)調査部が信頼できると判断した各種資料に基づいて作成されていますが、機構は本資料に含まれるデータおよび情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、本資料は読者への一般的な情報提供を目的としたものであり、何らかの投資等に関する特定のアドバイスの提供を目的としたものではありません。したがって、機構は本資料に依拠して行われた投資等の結果については一切責任を負いません。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、機構資料からの引用である旨を明示していただきますようお願い申し上げます。

削減、二酸化炭素の再圧入、製油所の省エネやエネルギー効率向上などを含む新たな脱炭素化技術を展開し、脱炭素化を推進するとした。また、気候変動を担当する執行役員(executive management)の設置、原油流出ゼロ目標の設定なども強調した。一方で、専門知識が乏しく、投資対効果が期待できない再生可能エネルギー事業には手をつけないという。

他の大手石油会社が再生可能エネルギーへの取り組みを急ぐ中、Petrobras は、石油の需要が短期的、中期的に減少することはないと考えており、石油生産の拡大に注力し、今後 5 年間は再生可能エネルギーへの大幅な投資は予定していないとした。同社の最高戦略責任者である Rafael Chaves Santos 氏は、「我々は石油会社だ。需要がなくなることはないし、化石燃料を大規模に代替できる技術が他にあるとは思えない」と述べた。

## 2. Open Acreage 方式の鉱区入札

ブラジル国家石油庁(ANP)は 12 月 4 日、Open Acreage 方式の鉱区入札を実施した。

Open Acreage 方式の入札は、成熟油田や過去の入札で落札されなかった鉱区、返還された鉱区を対象に、企業の要請に基づいて実施される。2019 年に同方式の最初の入札が行われ、今回は同方式による 2 回目の入札となった。ブラジル政府は 2020 年に第 17 次ライセンスラウンド、第 7 次 PS 入札ラウンド、transfer-of-rights エリアの第 2 次入札ラウンドを実施する予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大や市場の状況から、これらを延期することとした。そのため、ブラジルでは 2020 年にはこの Open Acreage 方式の入札のみが行われることとなった。

今回の入札は、Camamu-Almada、Campos、Ceará、Espírito Santo、Jacuípe、Pelotas、Pernambuco-Paraíba、Potiguar、Santos、Sergipe-Alagoas 盆地の 708 鉱区(探鉱)と Espírito Santo 盆地 Rio Ibiribas 油田、Recôncavo 盆地 Miranga 油田、Solimões 盆地 Juruá 油田の 3 成熟油田を対象とした。ExxonMobil、Karoon、Murphy Oil、Petrobras、Premier Oil、Rosneft、Shell、Total、Wintershall など 69 社が入札に参加するとして登録を行った。

実際に入札に参加した企業は 7 社で、17 の鉱区と成熟油田 1 油田が落札された。サインボーナスは合計で 5,700 万リアル(1,100 万ドル)、最低投資義務額は 1 億 6,000 万リアルとなった。

沖合鉱区は 35 鉱区が入札対象とされ、Campos、Santos 盆地の鉱区の中にはプレソルトで油田発見の可能性のある鉱区も含まれていた。2017 年から 2019 年の入札では、同様の鉱区に対しメジャーをはじめとする石油会社が競って札を入れ、記録的な額のサインボーナスをブラジル政府にもたらした。ところが、今回の入札で落札された沖合鉱区は、入札に付された 35 鉱区中、Campos 盆地の Block C-M-757

### Global Disclaimer(免責事項)

本資料は石油天然ガス・金属鉱物資源機構(以下「機構」)調査部が信頼できると判断した各種資料に基づいて作成されていますが、機構は本資料に含まれるデータおよび情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、本資料は読者への一般的な情報提供を目的としたものであり、何らかの投資等に関する特定のアドバイスの提供を目的としたものではありません。したがって、機構は本資料に依拠して行われた投資等の結果については一切責任を負いません。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、機構資料からの引用である旨を明示していただきますようお願い申し上げます。

の1鉱区のみであった。Shellが同鉱区をサインボーナス1,200万リアル(230万ドル)、最低投資義務額2,900万リアルで落札した。同鉱区は、プレソルトで油田を発見できる可能性を秘めた鉱区であるが、PS契約を締結することが必要なプレソルトエリアの外側に位置している。Shellは、2019年10月に実施された第16次ライセンスラウンドで、C-M-757ブロックの北に位置するBlock C-M-659とBlock C-M-713をQatar Petroleum、Chevronとコンソーシアムを組み落札している(図8)。その2鉱区の権益保有比率はShellが40%、Qatar Petroleumが25%、Chevronが35%で、Shellがオペレーターである。また、そのサインボーナスはそれぞれ、7.14億リアル、5.51億リアルであった。Shellは、今回の入札は同社がブラジルへの投資を継続していくことを示しているとした。Shellは、ブラジルの探鉱中の鉱区23鉱区、開発中の鉱区1鉱区、生産中の鉱区14鉱区の権益を保有している。

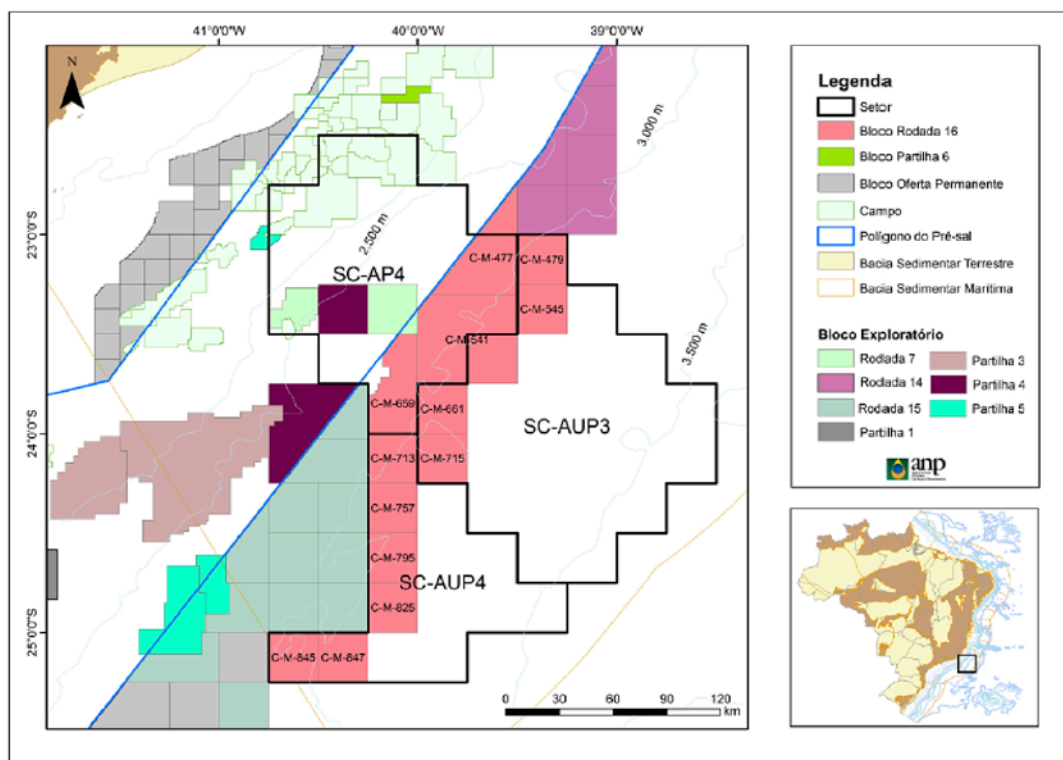


図8. Campos 盆地主要鉱区図

出所: ANP website

沖合鉱区の入札が低調だったのに対し、陸上の鉱区に関しては、ブラジル政府による Petrobras が独占してきたガス市場を開放しようとする動きを前に、ブラジル企業6社が入札し、それぞれの探鉱・開発事業の足場を固めた。いずれもガス狙いで探鉱権益を増やそうとしている。

**Global Disclaimer(免責事項)**

本資料は石油天然ガス・金属鉱物資源機構(以下「機構」)調査部が信頼できると判断した各種資料に基づいて作成されていますが、機構は本資料に含まれるデータおよび情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、本資料は読者への一般的な情報提供を目的としたものであり、何らかの投資等に関する特定のアドバイスの提供を目的としたものではありません。したがって、機構は本資料に依拠して行われた投資等の結果については一切責任を負いません。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、機構資料からの引用である旨を明示していただきますようお願い申し上げます。

Eneva は Imetame Energia を破り、Solimões 盆地の Juruá 油田を最高額のサインボーナス 2,576 万リアル、最低投資義務額 360 万リアルで落札した。Eneva はまた、Amazonas 盆地の Block AM-T-62、AM-T-84、AM-T-85 を、サインボーナス合計 1,630 万リアル、最低投資義務額 6,850 万リアルで落札した。さらに、Enauta Energia とコンソーシアムを組み、Parana 盆地の Block PAR-T-196、PAR-T-215、PAR-T-86、PAR-T-99 をサインボーナス合計 593,000 レアル、最低投資義務額 2,280 万リアルで落札した。権益保有比率は Eneva が 70%、Enauta が 30% となっており、Eneva がオペレーターを務める。

Eneva は、2007 年に創立されたブラジルの発電事業者、商社で、天然ガスの探鉱・生産にも携わっている。Eneva の火力発電設備容量は 2.2 ギガワット(ブラジルの火力発電設備容量の 5%)、天然ガス生産能力は日量 840 万立方メートルでブラジル最大の民間天然ガス事業者である。Eneva が今回取得することになった鉱区は、同社の現在の探鉱・開発事業や、同社が Petrobras から取得を目指している Urucu ガス田と近く、Eneva は今回の入札で Amazonas、Parana、Solimoes 各盆地での探鉱・開発体制を強化することになった。Petrobras は 12 月 4 日に、Eneva と 3R Petroleum Oleo e Gas からそれぞれ 6 億ドルと 10 億ドルの Urucu ガス田に対する拘束力のある買収提案を受けたことを明らかにしている。Petrobras は現在、両社からの提案を評価中であるという。

Enauta Energia(元 Queiroz Galvão Exploração e Produção)は、ブラジル企業 Construtora Queiroz Galvão の子会社で、ブラジルで石油・天然ガスの探鉱・生産に従事している。2020 年 9 月に Enauta の CEO に就任した Décio Fabricio Oddone da Costa 氏は、Petrobras や Braskem などに勤務後、ANP の長官を務めた人物である。2009 年に設立された同社は、Foz do Amazonas から Santos 盆地までブラジルの 8 堆積盆地に 15 鉱区を保有し、ブラジル最大のガス田である Manati ガス田などで生産中であるが、陸上での探鉱・生産に乗り出すのは今回が初めてとなる。

Imetame Energia と ENP Ecosystemas は、Espírito Santo 盆地の 7 鉱区(Block ES-T-305、ES-T-409、ES-T-429、ES-T-466、ES-T-486A、ES-T-517、ES-T-527)をサインボーナス 356,000 レアル、最低投資義務額 449 万リアルで落札した。

Imetame Energia は、ブラジル陸上で探鉱・開発を行う石油会社で、1994 年に設立された。Potiguar、Espírito Santo、Recôncavo、Sergipe-Alagoas、São Francisco 盆地の 33 鉱区の権益を保有している。Imetame は、Petrobras から Espírito Santo 盆地の Lagoa Parda 油田を取得し、Espírito Santo 盆地に Imetame I 天然ガス火力発電所の建設を計画している。2025 年までの設備投資額は 1 億 6,000 万ドルとされている。

ENP Ecosystemas は、Espírito Santo 州を中心に、ブラジル全土で探鉱、生産、精製、石油・ガスのイン

**Global Disclaimer(免責事項)**

本資料は石油天然ガス・金属鉱物資源機構(以下「機構」)調査部が信頼できると判断した各種資料に基づいて作成されていますが、機構は本資料に含まれるデータおよび情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、本資料は読者への一般的な情報提供を目的としたものであり、何らかの投資等に関する特定のアドバイスの提供を目的としたものではありません。したがって、機構は本資料に依拠して行われた投資等の結果については一切責任を負いません。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、機構資料からの引用である旨を明示していただきますようお願い申し上げます。

フラプロジェクト事業を展開する総合エネルギー企業である。ENP は、Espírito Santo 州と Rio de Janeiro 州の州境の浅海に、複数の天然ガス事業者から供給されるガスを両州のガス処理施設に分配する天然ガスのハブ (Hub Gasines) を建設することを計画している。ENP の CEO、Marcio Felix 氏は鉱山エネルギー省で石油・ガス長官を務めていたが、同時期に ANP の長官を務めていた Enauta の CEO、Décio Fabricio Oddone da Costa 氏とともに、ガス市場の自由化を進めた人物である。

PetroRecôncavo は、Potiguar 盆地の Block POT-T-702 をサインボーナス 75,000 レアル、最低投資義務額 600 万レアルで落札した。PetroRecôncavo は、Recôncavo、Potiguar 盆地に鉱区を保有、オペレーターとして成熟油田の開発を行っている。

また、Petroborn は、Tucano 盆地の Block TUC-T-172 をサインボーナス 5 万ドル、最低投資義務額 240 万ドルで落札した。Petroborn は Tucano Sul 盆地の Campo de Itai ガス田のオペレーターを務めている。

今回の入札に関して、ANP の Raphael Moura 事務局長は、石油・ガス産業にとって特に困難な年に行われたが、大成功だったと語った。これは、2019 年に実施された Open Acreage 方式の最初の入札と比較してサインボーナスが 430 万ドルから 1,090 万ドルへとほぼ倍増したことや、これまで未探鉱だった鉱区が落札されたことに注目した発言と考えられる。

一方、沖合鉱区については、Bento Albuquerque 鉱山・エネルギー相が、政府は Santos 盆地や Espírito Santo 盆地などの沖合鉱区への関心の欠如を分析すると述べている。政府は、2019 年 11 月に実施されたプレソルトエリアを対象とする 2 回の入札が不調に終わったことから、プレソルトエリアに関する契約条件や入札方式の変更を検討している。今回も、沖合鉱区への入札が 1 件しかなかったことから、ブラジル政府は契約条件などを石油会社が参入しやすいように見直すのではないかとの見方がなされている。

なお、ANP は、延期していた第 17 次ライセンスラウンドを 2021 年 10 月 7 日に実施する計画だ。

以 上

**Global Disclaimer(免責事項)**

本資料は石油天然ガス・金属鉱物資源機構（以下「機構」）調査部が信頼できると判断した各種資料に基づいて作成されていますが、機構は本資料に含まれるデータおよび情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、本資料は読者への一般的な情報提供を目的としたものであり、何らかの投資等に関する特定のアドバイスの提供を目的としたものではありません。したがって、機構は本資料に依拠して行われた投資等の結果については一切責任を負いません。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、機構資料からの引用である旨を明示していただきますようお願い申し上げます。